

はる
せいざかいせつ
春の星座解説

M44・プレゼパ星団 (ビーハイブ: 蜂の巣)



春の大三角

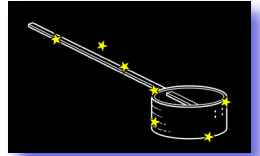
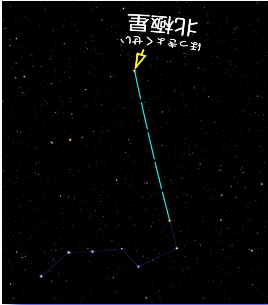
厳しい寒さがやわらいて、季節が冬から春になると、
夜空に輝く星たちも、冬の星座から春の星座に変わっていきます。
星空を見上げる時大切なのが、自分はどちらの方角を向いているのかということ。
まずは方角の確認からしてみましょう。

はる 春の星座解説

(約14分15秒)

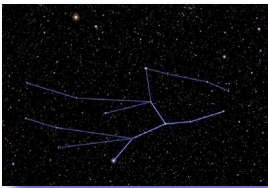
厳しい寒さがやわらいで、季節が冬から春になると、夜空に輝く星たちも、冬の星座から春の星座に変わっていきます。星空を見上げる時大切なのが、自分はどちらの方角を向いているのかということ。まずは方角の確認からしてみましょう。

北極星は北の方角の目印 頭の上、高いところを見て下さい。ひしゃくの形に並んだ7つの星がわかりますか？これが、「北斗七星」。北のひしゃくの七つの星という意味。ひしゃくとは神社においてある水を汲む道具です。ひしゃくの水をくむところの二つの星を結んで、その長さを5倍伸ばしましょう。たどりついた星が「北極星」。北半球の星のめぐりの中心になります。一年中、ほとんど位置が変わらないように見えるので、北の方角の目印になります。



おおぐま座とこぐま座 北斗七星は星座の名前ではありません。おおぐま座のしっぽにあたる星の並びで、88星座の中で三番目に大きな星座です。北極星のところにある星座は、こぐま座。この二匹の熊の星座は、ギリシャ神話では熊に姿を変えられた親子、妖精カリストと、その息子アルカスだと言われています。北斗七星はなかなか便利な星の並びで、春の星座をつぎつぎと探すことができます。

うしかい座とりょうけん座 北斗七星のひしゃくを持つところのカーブを、そのままずっと伸ばしていくと、オレンジ色に輝く明るい星がひとつ見つかりました。これは、「アークトゥルス」。うしかい座のひざに輝く一等星です。うしかい座は、神話では天空を支える巨人、アトラスの姿だとも言われています。ふりあげた左腕の先には何かに吠えかかる二頭の猟犬、りょうけん座があります。吠えられているのはおおぐま座です。うしかい座の一等星に熊の番人という名前がついているゆえんです。

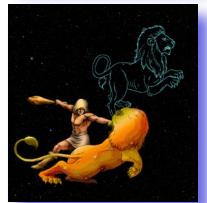


おとめ座 アークトゥルスまで伸ばしたカーブを、さらに南の方へ伸ばしてみましょう。今度は真っ白に輝く星が見つかります。おとめ座の一等星「スピカ」。その清楚な輝きから、日本では昔から「真珠星」と呼ばれて親しまれてきました。おとめ座の目印は、スピカから大きなYの字に連なる星の並び。おとめ座は大きさ第二位の星座です。春の夜空にゆったりと横たわる女神の姿を想像してみましょう。右手に羽根ペンを、左手には麦の穂を持つことから、愛と正義の女神、アストレイヤの姿とも、大地の女神、デーメテルの姿とも言われています。

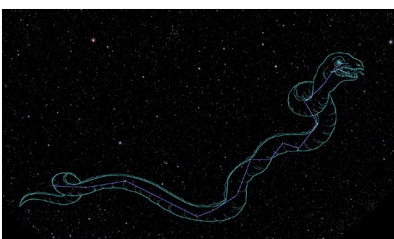
春の大曲線とからす座 北斗七星からうしかい座のアークトゥルス、おとめ座のスピカと伸ばしてきた線、これを「春の大曲線」と言います。この大曲線をさらに伸ばすと、もうひとつ小さな星座を見つけることができます。4つのいびつな四角形がありますが、これがからす座です。このからす、神話では真っ白な美しい声で話すきれいな鳥でした。ところがうそつきだったため、太陽の神アポロンの怒りにふれ、姿は真っ黒、ガーガーとしゃべったような声に、みせしめのために4本のくぎで空にはりつけにされたので、今でもそのくぎが光って見えるということです。北斗七星から色々な星座が見つかりました。春の星座を探すのに大変便利なので覚えておいて下さいね。



春の大三角としし座 アークトゥルスとスピカ、あともうひとつ星を使って、正三角形を作るとすると、ちょっと暗いけれどこの星がよさそうですね。これは「デネボラ」という名の二等星。しし座のしっぽに輝く星です。頭はどこかという、もつと西の方、はてなマークを裏返しにしたような形の星、そこからしし座が見つかりました。これらの3つの星を結んだ大きな正三角形が、「春の大三角」です。神話によるとしし座は、ネメアの谷に住む怪物ライオンで、その毛皮は鋼鉄のように硬く、剣や弓矢も跳ね返すと言われましたが、のちに英雄ヘルクレスによって退治されました。



かに座のプレセペ星団 ヘルクレスが退治した怪物は、しし座だけではありません。しし座の鼻先には、アミーネの沼地に住んでいた化けガニの姿があります。かに座です。同じ沼に住むヒドラが、ヘルクレスに退治されそうになったとき、加勢しようとしたものの一足で踏みつぶされてしまいました。そのヘルクレスの足跡がありそうな甲羅のあたり、ぼうっとしたものが見えますが、双眼鏡でのぞいてみると100個あまりの星の集まりであることがわかります。これは「プレセペ星団」。パラパラと集まった星をみためて「ビーハイブ(蜂の巣)」なんて呼ばれています。



うみへび座 かに座の友だち、ヒドラはどこにいるのでしょうか。かに座のすぐ下からずっと東の方へかけてくねくねと長く連なる星を結んでいくと、巨大なうみへび座が浮かび上がります。かに座のあたりからしし座の下を通り、からす座のさらに東まで、東の空に頭をのぞかせてから、しっぽまで全部のぼりきるのに6時間もかかる大きな星座です。当然、すべての星座の中でもっとも大きな面積を持っています。第二位はおとめ座、第三位はおおぐま座、春の空には大きな星座が多いですね。北斗七星から春の星座を探していく方法と、春の大三角を使って星座を探しました。

語り:千葉真理 脚本・神話イラスト:高部哲也 CG:NOBO 星座イラスト:塚田洋子 編集:福留政彦 天体写真:NOAO/AURA/NSF